

さんぼく南・さんぼく北小学校 統合合同検討会会議録（要旨）

【H28. 7. 27 さんぼく会館】

参集者：68名

小学校保護者30名、保育園保護者2名、集落総代21名、地域の方9名、行政等6名

- ・開会
- ・教育長あいさつ
- ・これまでの経過等説明
- ・質疑応答～検討

- 参加者 校舎老朽化への対応は。また今後の具体的スケジュールは。
- 教委 老朽化に対しては順次計画的に実施したい。統合先となった場合は当然優先される。複式学級になって教員の減員等不便をきたしている。統合先の大きな問題はあるが、お互いが腹を割った意見交換をお願いしたい。
- 参加者 本音は統合反対であるが、地区の人口減少の現状を考えるとやむを得ないかということになる。両校の改修につきましては、出来るだけ早めに進めてほしい。
- 教委 市全体の学校のこともあり、今時点では出来るだけ進めたいと考えている。
- 参加者 以前の統合では大論争があったが、またこうして統合を迎えるが、一番に考えることは子どもたちのことを考えて、両方の学校と保護者が話し合ってもらいたい。
- 参加者 教室の面積に違いがあるが今後も大丈夫か。
- 教委 北小が比べると狭いので、少し窮屈感はあると考える。
- 参加者 市独自の教職員の配置は可能か。
- 教委 さんぼく北小には複式学級の学力低下にならないように非常勤講師を1名配置させていただいたが、あくまでも補助的なものである。
- 参加者 有識者が検討会で今後あるべき学校の姿を検討したと思うが、みなさん考え方が違うわけであるので綱引き的ではなく、望ましいところを教育的に話し合ったのか。
- 教委 19名の検討委員会で検討されたわけであるが、60年ぶりに改訂が行われた国の小中学校の適正規模に関する手引きも考慮し、この地域では1クラス20人以上が必要とされたものである。
- 参加者 この合同検討会での合意はいつ頃までを考えているか。
- 教委 いつまでというより、このように会議を進めて結論を出していただきたいと考えている。なお出来ればということになれば今年中あたりを考えている。
- 参加者 個々の参加者が言葉に出せないでいるのは、具体的には場所が問題であるからだろうが、話し合いよりないだろう。
- 参加者 この先を考えた場合統合は必要であろうが、合意に至るまでより具体的なものが必要であろう。教育委員会の具体的案があったらたたき台になる。
- 教委 教育委員会による決定でなく、まずは両校で腹を割った話し合いをもって決定していただきたいと考えている。
- 参加者 客観的な有識者へゆだねることも考えられるが、自分としては小学校から中学校へは隣でなく、環境の変化が必要と考える。

- 参加者 自分の子どもは環境の変化はあった方が良かったと言っていた。
- 参加者 各学校での検討会は保護者全員参加でなかったし、その後も十分な説明がなされていないので今日だけでの合意は難しい。反対が多かったら別のスケジュールもあるのか。
- 教委 両校での検討会では統合は致し方ないということで受けとめていただいたはず。その思いで今日の合同検討会に臨まれていると理解している。
- 参加者 様々なご意見はあるが、今後は建設的話し合いが必要では。
- 参加者 合意に至るまでのビジョンがないのでは。決め方を決める必要があるのでは。綱引きでなく、多方面からの意見収集が必要。市民が知らないようではならない。通学路の安全等詳細のことが必要ではないか。
- 教委 今後、最終合意された後に専門部を立ち上げ、その中でスクールバスの安全運行等の様々な詳細については検討したい。
- 教委 今後各学校関係者、代表者での検討にゆだねるということでしょうか。
- 参加者 一般住民の方で関心のある方をもメンバーに考えたら。
- 教委 再確認として、統合に向けて進めるという意味決定はされていると考えているがいかがか。
- 参加者 参加者が少ない中で決定されていいのか。
- 教委 保護者全員に今回ご案内させていただいているわけであり、各校の検討会后1か月経過し、様々話し合いされた上のこの会と考える。
- 教委 統合を前向きに考え、校舎や校名はこれから具体的に話し合いの中で検討し合意を進めたいと考えている。
- 参加者 今後統合に向けて賛成であるし、代表者による話し合いは大切である。

※ 各代表者による合同検討会を開催することを、全員に確認する。

・閉会